

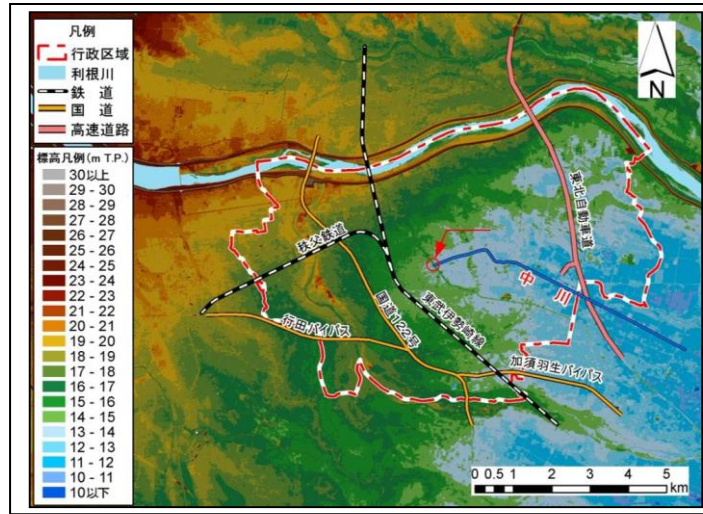
羽生市浸水対策基本計画の概要

■浸水被害に関する現状と課題

◎地理的特徴

羽生市は加須低地の北部に位置し、利根川から南東方向に緩やかに傾斜しており、特に市の中央部を起点とする一級河川中川に雨水排水などが集約される地形となっている。

市街地中心部の宮田地区は、葛西用水路により地形の勾配が分断されている。また、城沼・東谷地区は、北西から南東に緩やかに傾斜しており、周辺に比べて低地となっており、周辺の雨水が集まりやすい状況となっている。



◎降雨の状況

近年、日本各地で大雨による被害が多発し、埼玉県においても時間雨量 50mm を超えるような集中豪雨の発生回数が、この 10 年間で約 1.8 倍となっており、明らかな増加傾向にあります。

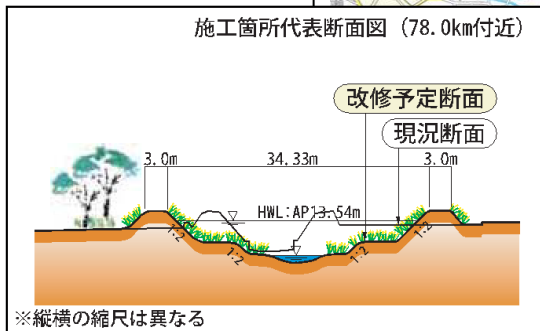
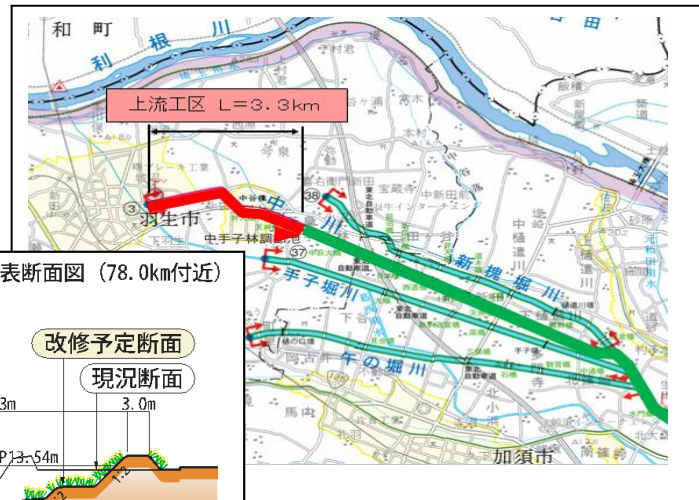
また、羽生市においても、平成 25 年 10 月に発生した台風 26 号（総降雨量 185mm/21 時間、時間最大雨量 34mm）では、床上浸水 16 件、床下浸水 190 件が発生したほか、ゲリラ豪雨による道路冠水が市内各所で発生している状況にあります。

◎浸水被害の原因

上述の地理的特徴から、標高の低い地域などで排水が確保できずに被害が生じている。また、本市の雨水排水は中川に集約させているが、台風などの大雨時は中川の水位が上昇するため各排水路から中川へ排水できず、浸水被害が生じている。

■一級河川中川改修事業（埼玉県事業）

中川の流量調整を行う調節池及び起点までの河道改修事業により、羽生市の浸水被害軽減を図る河川改修事業が県で進められています。



【概要】

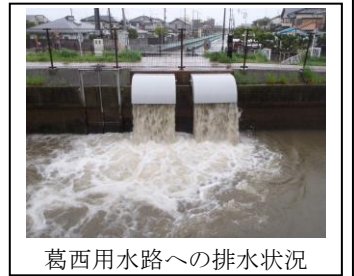
- 中手子林地内調節池
計画容量：約 15 万 m³
- 中川河道改修
延長約 3.3km、
河道幅約 18m～38m

■浸水被害対策の基本的な考え方

甚大な被害が生じた平成 25 年台風 26 号と同クラス以上の豪雨が直撃しても、浸水被害が全く生じないような対策を講じることが理想ですが、地形上の制約や財政状況を踏まえ、「減災」を図るという視点から実現可能な計画を立案します。

<対策のポイント>

- ◎市内排水の受け皿となる中川の早期改修
- ◎中川満水時に排水出来ない雨水を一時的に貯留する施設設置（調整池等）
- ◎早期に効果を発現できるよう優先順位を定め、段階的に事業を実施
 - ・継続対策（これまで行ってきた対策を改善しながら継続）
 - ・即効対策（すぐに対応が可能な対策）
 - ・中長期的対策
（事業費がかかるため段階的に実施する対策及びその検討等）
- ◎計画対象期間は、平成 33 年度末を目標



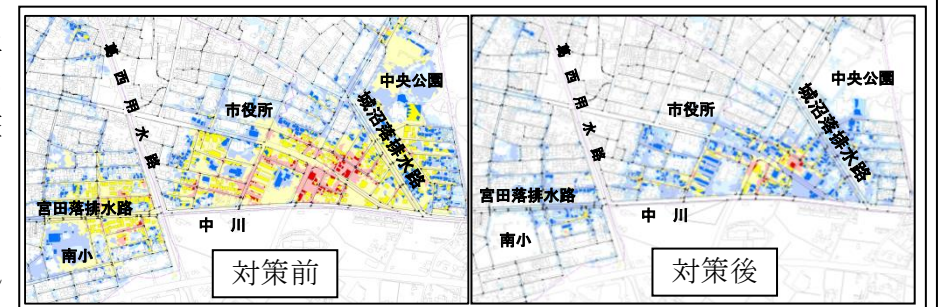
葛西用水路への排水状況

■具体的対策メニュー

番号	項目	対策	内容
1	継続対策	中川改修事業（県事業）への支援	用地交渉などの積極的支援を継続
2		土地改良区との連携強化	通水量の調整による用排水路の貯水機能の向上
3		排水ポンプの適切な運転・維持管理	13 箇所、計 23 基のポンプの点検・維持管理
4		雨水流出抑制施設の設置の推進	開発調整池や浸透施設設置の適切な運用
5		県との連携強化	河川・下水道事業調整協議会による協力
6	即効対策	国道等アンダーパス部の安全確保	たん水深などが分かる道路標示を順次設置
7		計画的な道路側溝清掃	浸水区域を主体に段階的に清掃実施
8		止水板設置補助金制度の導入検討	民有地への浸水を防止する止水板設置補助を検討
9		道路の嵩上げ	効果が見込める箇所の部分的道路嵩上げ
10		「土のうステーション」の整備	住民が持ち出し可能な土のうを公園などに配置
11	中長期的対策	排水ポンプ増設検討・設置	排水ポンプ車などを配備し機動的に排水を処理
12		調整池等の設置	調整池などを段階的に施工
13		排水施設等の改修検証	既存の排水路及び調整池の改修の有効性を検討
14		農地の貯水機能の活用検討	他県で進められている「田んぼダム」の可能性検討

■想定される効果

近年で最大の被害をもたらせた平成 25 年台風 26 号レベルの台風が再来した場合でも、新たな調整池を整備することにより、床上浸水が生じる区域は大幅に減少することが見込まれる。なお、地盤が低いことにより、床上浸水が解消されないと見込まれる区域については、別途、道路の嵩上げやポンプ排水処理などの個別対応を実施し、被害の軽減を図る。



※上記シミュレーションは、浸水被害が大きい中川起点近隣のものであり、上記以外の区域においても冠水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。